

教師の威厳ある指導態度尺度 改訂版の作成

遠 山 孝 司*

問題と目的

教師の態度や教師生徒関係については、これまで多くの研究がなされており、それらの多くが教師生徒関係、または教師の子どもに対する態度が子どもに影響を与えることを明らかにしてきた。例えば、Cogan (1958) は、教師の親和、愛育などを含む行動が生徒の自発的学習態度と学習量の両方に関係するとしている。Medley & Mitzel (1959) は、小学校での教師の教室内での友好的な行動が、児童の読書能力、グループでの問題解決能力、教師と児童の心理的結びつき、教師の自己評価、校長の評定などと関連していることを示している。Ryans (1961 a, 1961 b) は、教師の教室内での行動と子どもの生産的な行動の間に関連があることを明らかにした。McKeachie, Lin, Milholland, & Isaacson (1966) は大学生を対象として、教室において示される教師の親和的手がかりが高いと、親和動機の高い学生の成績が高くなることを示し、佐藤・篠原 (1976) は、小学校の学級担任教師の目標達成機能 (Performance 機能) と集団維持機能 (Maintenance 機能) の両方が高い際に学級雰囲気や学級意識に対して大きな影響力を持つことを示した。三隅・吉崎・篠原 (1977)、三隅・矢守 (1989) は、小学校と中学校の教師の、学習を促進させたり課題を解決するのを助けたりする P 行動と、児童・生徒集団の安定、維持をはかる M 行動の両方の行動を発揮する PM 型の教師が、児童

* 人文学部非常勤講師・名古屋大学大学院一教育心理学

生徒の学習意欲やスクールモラルを向上させることを明らかにした。Deci, Nezlek, & Shienman (1981), Deci, Schwartz, Sheinman, Koestner, & Ryan (1981), Deci, Spiegel, Ryan, Koestner, & Kauffman (1982) などは、教師の行動を「統制」と「自律性支持」に分けて検討しており、統制しようとする教師が児童生徒の自立的な関与感を減少させ、児童生徒の内発的動機づけや自己概念を低めるのに対し、自律性を支持しようとする教師は児童生徒の有能感形成を助け、動機づけや自己概念を高めることを示している。Ryan & Grolnick (1986) は児童が認知した学級担任の自律的・統制的という指導態度がその児童の内発的動機づけや自己概念に影響を与えるとしている。河野 (1988) は、教師が親和的であることが小学生の学習成績、学習課題および教師に対する好意にポジティブな影響を与えることを明らかにした。森下 (1985) は幼稚園において、担任教師が園児のモデルとなり、幼児の攻撃行動・愛他行動が、モデルの行動を模倣するモデリングによって形成されることを明らかにしている。それは、男子は教師が拒否的な場合に教師の攻撃行動のモデリングが行われやすくなり、女子は教師が受容的な場合に教師の愛他行動のモデリングが行われやすくなるというものであった。また、吉田・山下 (1987) は、小学生と中学生の学習意欲に影響を及ぼす要因を検討し、小学校、中学校の教師の行動は児童生徒の学習意欲を促進も阻害もするということを明らかにしている。Maehr & Midgley (1991) や Ames (1992) は教室と学校における教師の教育実践と教育方針が、生徒の成功の意味や達成目標のものになっているとした。さらに、Roeser, Midgley, & Urdan (1996) は子どもが認知した学校の教育目標が子どもの目標として内面化されていることを示している。

このように教師の子どもに対する影響を左右する教師の態度や教師生徒関係を捉える枠組みとして、親和や友好 (Cogan, 1958; 河野, 1988; Mckeachie et al., 1966; Medley & Mitzel, 1959; 三隅・矢守, 1989; 三隅ら, 1977; 森下, 1985; 佐藤・篠原, 1976), 統制 (Deci, Nezlek, & Shienman, 1981; Deci, Schwartz, Sheinman, Koestner, & Ryan, 1981; Deci et al., 1982; 三隅・矢守, 1989; 三隅ら, 1977; Ryan & Grolnick, 1986; 佐藤・篠原,

1976), 自律性支持 (Deci, Nezlek, & Shienman, 1981 ; Deci, Schwartz, Sheinman, Koestner, & Ryan, 1981 ; Deci et al., 1982 ; Ryan & Grolnick, 1986), 拒否 (森下, 1985) などが用いられている。遠山 (2004 a) はこれまでの教師生徒関係や教師の子どもに対する態度を捉える枠組みから, Baumrind (1967) が提唱した親の威厳ある養育 (authoritative parenting) に関する一連の研究で扱われている「受容もしくは温かさ」, 「行動の監督と厳しさ」, 「心理的な自律性の尊重もしくはデモクラシー」の3つの下位概念 (Steinberg, Lamborn, Dornbusch, & Darling, 1992) を, 教師の威厳ある指導態度に援用できるのではないかと考え, 「受容」, 「統制」, 「心理的自律性の尊重」の3つの下位尺度からなる教師の威厳ある指導態度尺度を開発した (Appendix 1 参照)。そして, 遠山 (2004 b, 2004 c) において, 大学生や専門学校生が想起した小学校, 中学校, 高校の頃の親の養育態度だけでなく, それぞれの校種における教師の指導態度も, その時々校種における, さらにその後の校種における学校適応感や学習動機づけ, 現在の信頼感と関連していることを示している。これらは, 教師の指導態度が子どもに与える影響を検討していく際に, 教師の威厳ある指導態度を「受容」, 「統制」, 「心理的自律性の尊重」の3つで捉えることの意義を示したものとといえる。しかし, 遠山 (2004 a, 2004 b, 2004 c) で扱われた教師の威厳ある指導態度尺度には3つの問題点がある。1つめは, 各校種の一人の教師ではなく一般的な教師イメージに基づいて, その指導態度の評定を求めたものであるため, 一人の教師の指導態度について評定する際に用いることが出来る尺度かどうかが確認されていないことである。2つめは, 「心理的自律性の尊重」の下位尺度に含まれる項目群には「個性の尊重」を意味すると思われる内容の項目も含まれていることである。3つめは小学校の教師の指導態度についての評定は5年以上前の過去を想起し評定しているため, 時間の経過にともなう教師イメージの変容の影響を受けている可能性があることである。これらの問題点をふまえ, 本研究では, 「心理的自律性の尊重」の項目内容に修正を加えた教師の威厳ある指導態度尺度の改訂版を作成する。そして, 遠山 (2004 a) では, 小学校から高校までの教師の指導態度を捉えるための共通の枠組みを開発す

るために、小学校、中学校、高校の教師に対する評定を全てまとめ、教師の威厳ある指導態度尺度を作成したが、本研究では、時間の経過にともなって起きる教師イメージの変化を極力排除できるよう高校卒業後2年以内の大学生および専門学校生に高校3年の時のことを振り返るよう求め、校種ごとの教師に持っているイメージではなく、高校3年の時のクラス担任という一人の教師の指導態度についての評定を求める。そして教師の指導態度が「受容」、「統制」、「心理的自律性の尊重」の3つの下位概念で捉えることが出来るかどうかを再度確認する。

方 法

調査協力者：愛知県内の専門学校と大学の1年生および2年生296名の協力を得た。

調査時期：2004年4月に調査が行われた。

調査内容：高校3年の時の担任教師の指導態度について、質問紙による調査が行われた。質問紙の内容として、教師の威厳ある指導態度のインベントリー（遠山，2004 a, 2004 b, 2004 c）の改訂版を用いた。改訂版のインベントリーは36項目に対して「まったくあてはまらない（1点）」、「あまりあてはまらない（2点）」、「ややあてはまる（3点）」、「非常によくあてはまる（4点）」の4件法で回答するものであった。質問紙の教示文は、「以下の項目はあなたが高校3年のときの担任の先生にどのくらいあてはまると思いますか。それぞれの項目について数字を1つ選び、○で囲んでください。」であった。

手続き：調査は授業終了後の教室において、授業を担当した教員が質問紙を配布し、一斉に回答する形式で行われた。回答後の質問紙も授業を担当する教員が回収した。

結果と考察

回答に不備がある、年齢から高校卒業後2年以上経過している可能性がある、などの理由により13名分のデータを分析の対象から除外し、男性139名、女性144名、計283名から集められたデータを分析に用いた。分析に用いた調査協力者の平均年齢は18.5歳($SD = .87$)であった。

教師の威厳ある指導態度についての36項目に対する評定を得点化した上で、最尤法、プロマックス回転の因子分析を行った。その際、改訂前尺度の尺度構成に基づき、因子数は3として分析を行った。そして、分析結果を検討し、全ての因子に対して因子負荷量の絶対値が.40未満の項目や複数の因子に対する因子負荷量の絶対値が.40以上の項目など、いくつかの項目を削除しながら、繰り返し同手法の因子分析を行った。

因子分析の結果、教師の威厳ある指導態度は、固有値の減衰状況と因子の解釈可能性からも、3因子構造が妥当であることが確認された。そして、全ての項目が1つの因子に対してのみ絶対値.40以上の因子負荷量を持つことが確認された。説明率は48.4%であった。パターン行列および因子間相関をTable 1に示す。

教師の指導態度の第1因子は「先生は生徒のちょっとした変化にすぐ気が付いた」、「先生はよく生徒に自分から話しかけていた」、「先生は生徒に色々な話をしていた」、「先生は生徒ががんばるとほめていた」などの項目からなり、それらの項目内容から「受容」因子と命名された。第2因子は「先生は生徒の意見を尊重する人だった」、「先生は生徒の意見や考えをよく聞いた」、「先生は生徒に自分のことは自分で決めることを求めた」、「先生は、生徒が自分と違う意見を持っていたとしても、最後まできちんと生徒の話を聞いた」などの項目からなり、それらの項目内容から「心理的自律性の尊重」因子と命名された。第3因子は「先生は生徒のわがままを許さなかった」、「先生は生徒のことを厳しく指導した」、「先生がまじめな話をしているとき、生徒はまじめに聞かないとしかられた」、「先生のいうことを聞かないとしかられた」

Table 1 教師の威厳ある指導態度尺度の因子分析結果

	受容	自律	統制
先生は生徒のちょっとした変化にすぐ気が付いた	.85	-.19	-.05
先生はよく生徒に自分から話しかけていた	.70	-.07	.01
先生は生徒に色々な話をしていた	.70	-.11	-.02
先生は生徒ががんばるとほめていた	.64	.03	.01
先生は生徒が困っているとすぐに手助けをしてくれた	.63	.10	-.01
先生は生徒の将来の夢の話をよく聞いていた	.61	.16	-.03
先生は生徒のことをきちんと理解しようと努力していた	.56	.25	-.02
先生は生徒の性格や長所や短所をよくわかっていた	.53	.16	.03
先生は生徒の意見を尊重する人だった	-.17	.99	.01
先生は生徒の意見や考えをよく聞いた	.24	.62	.00
先生は生徒に自分のことは自分で決めることを求めた	-.25	.61	.15
先生は、生徒が自分と違う意見を持っていたとしても、最後まできちんと生徒の話を聞いた	.20	.61	-.05
先生は生徒の話を一生懸命聞いていた	.34	.56	.02
先生は生徒がやりたいと思ったことは何でもやらせてくれた	-.01	.56	-.16
先生は、生徒が自分たちでやろうと決めたことは最後までやり通させてくれた	.12	.49	-.01
先生は生徒に自分が責任を取れる範囲内でなら、好きなことをやらせてくれた	.08	.48	-.16
先生は生徒が自分で考えるということを大事にしていた	.26	.43	.05
先生は生徒のわがままを許さなかった	-.28	.01	.80
先生は生徒のことを厳しく指導した	.12	-.09	.67
先生がまじめな話をしているとき、生徒はまじめに聞かないとしかられた	-.09	.13	.67
先生のいうことを聞かないとしかられた	-.10	-.14	.67
先生は生徒が悪いことをすると、厳しくしかった	.27	-.07	.64
先生は生徒がダラダラしていると注意した	.20	.03	.52
先生はいけないことはいけないとハッキリ言っていた	.30	.20	.49
	受容	自律	統制
	受容 (.87)		
	自律 .75	(.88)	
	統制 .35	.07	(.84)

() 内は尺度の α 係数

などの項目からなり、それらの項目内容から「統制」因子と命名された。

因子間相関は遠山(2004 a)と同じく受容と心理的自律性の尊重の間に強い関連が示された。また心理的自律性の尊重と統制の間はほぼ関連がないこと

が示された。Deci, Nezlek, & Shienman(1981), Deci, Schwartz, Sheinman, Koestner, & Ryan (1981), Deci et al. (1982), Ryan & Grolnick (1986) は教師の態度を自律的-統制的という枠組みで捉えたが、本研究において心理的自律性の尊重と統制は両立しうることが示された。下位尺度の α 係数を算出したところ、尺度の内的-一貫性を示す十分に高い係数が得られた (Table 1 参照)。各因子を構成する項目の評定値の平均値を下位尺度得点として調査協力者個々に各下位尺度得点を算出し、さらに全体の平均値と標準偏差を算出したところ、天井効果および床効果は認められないと判断された (Table 2 参照)。

Table 2 教師の威厳ある指導態度尺度の下位尺度得点

	受容	統制	自律性尊重
平均値	2.82	2.68	2.91
標準偏差	.63	.61	.57
最小値	1.00	1.00	1.00
最大値	4.00	4.00	4.00

以上の結果から高校の教師の威厳ある指導態度について、一般的な教師イメージではなく、一人の教師の指導態度についても、「受容」、「統制」、「心理的自律性の尊重」の3つの下位概念で捉えることが出来ることが確認されたと言える。今後は、改訂版の教師の威厳ある指導態度尺度を用いて、遠山(2004 b, 2004 c)と同様に、教師の威厳ある指導態度の子どもの学業コンピテンスや学校適応感、対人信頼感などへのポジティブな影響が見られるかを確認する必要があるだろう。

ところで親の威厳ある養育態度の研究において、これまで以下のような知見が示されている。親を威厳があると評価した高校生が良い成績を取っている (Dornbusch, Ritter, Leiderman, Roberts, & Fraleigh, 1987)。親の威厳がある家庭で育てられた青年は動機づけやコンピテンス、達成志向の傾向、数学と言語テストの成績がもっとも高く、問題行動の発生率のもっとも低い (Baumrind, 1991)。親の威厳がある家庭の子どもは心理社会的コンピテンス

については高い値を、心理的および行動的な機能障害 (dysfunction) については低い値を示す (Lamborn, Mounts, Steinberg, & Dornbusch, 1991)。受容, 監督, 心理的な自律性の尊重の3つ全てが高い親の威厳ある養育態度は青年の学校でのより高い達成の程度とより強い学校活動への従事につながる (Steinberg et al., 1992)。親の自律性の尊重, 要求, 支援からなる威厳ある養育態度が幼年期から青年期にかけてだけでなく, 大学生においても成績, 自信, 辛抱強さ, 課題への関与, 教師との親密さを予想する (Strage & Brandt, 1999)。以上のような親の威厳ある養育態度の知見は教師の威厳ある指導態度が子どもにポジティブな影響を与える可能性を示唆するものである。親の威厳ある養育態度の研究で示されたいくつかの知見について, 教師の威厳ある指導態度が, 親の威厳ある養育態度と同様にポジティブな影響を与えるのかについても検討する必要があるだろう。また, 親と教師の態度を独立に扱うのではなく, 親と教師が子どもに与える影響について同時に検討する必要があるだろう。

引用文献

- Ames, C. 1992 Classrooms: Goals, structures, and student motivation. *Journal of Educational Psychology*, **84**, 261-271.
- Baumrind, D. 1967 Child care practices anteceding three patterns of preschool behavior. *Genetic Psychology Monographs*, **75**, 43-88.
- Baumrind, D. 1991 Parenting styles and adolescent development. In J. Brooks-Gunn, R. Lerner, & A. C. Peterson (Eds.), *The Encyclopedia of Adolescence* (pp. 746-758). New York: Garland.
- Cogan, M. L. 1958 The behavior of teachers and the productive behavior of their pupils: 1 "perception" analysis. *Journal of Experimental Education*, **27**, 89-105.
- Deci, E. L., Nezlek, J., & Sheinman, L. 1981 Characteristics of the rewarder and intrinsic motivation of the rewardee. *Journal of Personality and Social Psychology*, **40**, 1-10.
- Deci, E. L., Schwartz, A. J., Sheinman, L., Koestner, R., & Ryan, R. M. 1981 An

- instrument to assess adults' orientations toward control versus autonomy with children: Reflections on intrinsic motivation and perceived competence. *Journal of Educational Psychology*, **73**, 642-650.
- Deci, E. L., Spiegel, N. H., Ryan, R. M., Koestner, R., & Kauffman, M. 1982 Effects of performance standards on teaching styles: Behavior of controlling teachers. *Journal of Educational Psychology*, **74**, 852-859.
- Dornbusch, S., Ritter, P., Liederman, P., Roberts, D., & Fraleigh, M. 1987 The relation of parenting style to adolescent school performance. *Child Development*, **58**, 1244-1257.
- 河野義章 1988 教師の親和的手がかりが子どもの学習に及ぼす効果 教育心理学研究, **36**, 161-165.
- Lamborn, S. D., Mounts, N. S., Steinberg, L., & Dornbusch, S. M. 1991 Patterns of competence and adjustment among adolescents from authoritative, authoritarian, indulgent, and neglectful families. *Child Development*, **62**, 1049-1065.
- Maehr, M. L., & Midgley, C. 1991 Enhancing student motivation: A school wide approach. *Educational Psychologist*, **26**, 399-427.
- McKeachie, W. J., Lin, Y.-G., Milholland, H., & Isaacson, R. L. 1966 Student affiliation motives, teacher warmth, and academic achievement. *Journal of Personality and Social Psychology*, **4**, 457-461.
- Medley, D. M. & Mitzel, H. E. 1959 Some behavioral correlates of teacher effectiveness. *Journal of Educational Psychology*, **50**, 239-246.
- 三隅二不二・矢守克也 1989 中学校における学級担任教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性に関する研究 教育心理学研究, **37**, 46-54.
- 三隅二不二・吉崎静夫・篠原 忍 1977 教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性の研究 教育心理学研究, **25**, 157-166.
- 森下正康 1985 幼児の攻撃行動・愛他行動のモデリング——教師モデルに関する受容的—拒否的態度—— 心理学研究, **56**, 138-145.
- Roeser, R. W., Midgley, C., & Urdan, T. C. 1996 Perception of the school psychological environment and early adolescents' psychological and behavioral functioning in school: The mediating role of goals and belonging. *Journal of Educational Psychology*, **88**, 408-422.
- Ryan, R. M., & Grolnick, W. S. 1986 Origins and pawns in the classroom: Self-report and projective assessments of individual differences in children's perceptions. *Journal of Personality and Social Psychology*, **50**, 550-558.
- Ryans, D. G. 1961a Some relationships between pupil behavior and certain teacher

- characteristics. *Journal of Educational Psychology*, **52**, 82-90.
- Ryans, D. G. 1961b Inventory estimated teacher characteristics as covariates of observer assessed pupil behavior. *Journal of Educational Psychology*, **52**, 91-97.
- 佐藤静一・篠原弘章 1976 学級担任教師のPM式指導類型が学級意識および学級雰囲気
に及ぼす効果——数量化理論第Ⅱ類による検討—— 教育心理学研究, **24**, 235-
246.
- Steinberg, L., Lamborn, S. D., Dornbusch, S. M., & Darling, N. 1992 Impact of
parenting practice on adolescent achievement: Authoritative parenting, school
involvement, and encouragement to succeed. *Child Development*, **63**, 1266-1281.
- Strage, A., & Brandt, T. S. 1999 Authoritative parenting and college students'
academic adjustment and success. *Journal of Educational Psychology*, **91**, 146-
156.
- 遠山孝司 2004 a 親と教師の教育態度尺度の作成—— Authoritative Parenting の概
念を援用して—— 日本発達心理学会第15回大会発表論文集, 473.
- 遠山孝司 2004 b 親と教師の権威的教育態度が子どもに与える影響——学校適応感,
学習動機づけ, 信頼感との関連—— 日本心理学会第68回大会発表論文集, 1184.
- 遠山孝司 2004 c 中学校と高校の時の親と教師の教育態度と学校適応感および学習動
機づけの関連——過去の学校での学校適応感, 学習動機づけの影響を考慮して——
日本教育心理学会第46回総会発表論文集, 445.
- 吉田道雄・山下一郎 1987 児童・生徒の学習意欲に影響を及ぼす要因と現職教師の認
知 教育心理学研究, **35**, 309-317.

Appendix I 教師の威厳ある指導態度尺度の因子分析結果（改訂前：遠山2004a）

	受容	自律	統制
誰にでも優しく接する先生だった	.76	-.02	-.14
どんな話でも聞いてくれる先生だった	.72	.04	.00
生徒に自分から話しかける先生だった	.62	-.16	.14
何でも話してくれる先生だった	.50	.13	.00
生徒の話を一生懸命聞く先生だった	.47	.28	.07
生徒一人一人の性格をわかっている先生だった	.44	.26	.07
生徒の興味を伸ばそうとする先生だった	.36	.32	-.04
生徒の長所を伸ばそうとする先生だった	.02	.79	-.01
生徒の性格や将来のことをよく考える先生だった	-.05	.73	.05
生徒の苦手なものをなくそうとする先生だった	-.12	.57	.04
生徒のちょっとした変化にすぐ気が付く先生だった	.28	.46	-.06
生徒が悩んでいるとはげまそうとする先生だった	.30	.45	-.11
生徒の意見を尊重する先生だった	.34	.42	-.12
自分で決めて行動するとほめる先生だった	.19	.41	.02
しかるときは、なにがいけなかったのかきちんと説明する先生だった	.13	.40	.19
生徒が悪いことをすると、厳しくしかる先生だった	-.06	-.03	.75
生徒のことを厳しく指導する先生だった	-.29	.15	.66
いけないことはいけないとハッキリ言う先生だった	.14	.11	.56
生徒をしかるときは真剣にしかる先生だった	.32	-.06	.54
生徒がダラダラしていると注意する先生だった	.09	-.12	.54
	受容	自律	統制
	受容	(.84)	
	自律	.76	(.84)
	統制	.33	.44
			(76)

() 内は尺度の α 係数

(2005 年 5 月 1 日 受理)